

## Web情報に基づく中部山岳域におけるヤマネの目撃状況

国立大学法人筑波大学農林技術センター八ヶ岳演習林 杉山昌典・門脇正史

### 【目的】

国の天然記念物・準絶滅危惧種であるヤマネは本州・四国・九州の山間部に生息している。詳細な分布域は環境省（2002）が聞き取り調査を基に生息分布図を公表し、中島（2006）も文献等や自身の調査資料を基に分布域を明らかにしている。また、各都道府県もレッドデータブックとして分布図を公表している。しかしその後の広域的な分布状況は調査されていない。本研究では近年Web上で見られるヤマネの目撃情報を検索機能で収集し、「Google マイマップ」上にシェイプ描写機能で表示したWeb情報に基づくヤマネ分布状況と、既存のヤマネ分布状況の比較を行なった。

### 【材料及び方法】

Web情報は主にGoogle等のインターネット検索エンジンでキーワードを複数（例：ヤマネ、冬眠）入力し検索した結果、ヤマネの写真が明瞭で他者がヤマネと断定できる個人の情報や新聞社等の報道機関が情報発信したもの、発表文献で公表している目撃情報等、確実性のある情報を集めた。上記の方法で集めた情報を発見年月日・発見状況・発見地域（住所・標高）等に区分し集計した。分布図の作成においては生物多様性センターの図化手法に習い、地域メッシュ（2次）にし表記した。

### 【結果および考察】

発見事例は1995年以降でWeb情報607件（個人による情報546件、報道・文献情報61件）を基に集計した。

**年別**では2005年までは年間30件未満に留まっていたが、2006年から約2倍の60件以上の情報があった。これは総務省の「情報通信白書」によると、2004年から2006年にかけて個人でも容易かつ気軽にブログを立ち上げることが可能になった無料ブログ数が急増し、個人による情報発信数の増加によるものと思われる。

**発見状況**では家屋内での目撃が41%、野外目撃が53%の割合になった。

**月別**の情報数変化では家屋内・野外共に8月の目撃が多くなっている。

**地域別**では中部地方が最も多く、その中では長野県が最も多かった。その要因の一つとして中部山岳域にはヤマネが多く棲むことが考えられる。また八ヶ岳・軽井沢等の別荘地や上高地等の観光地があり、多くの人々がヤマネ生息地に立ち入る等々との接触の機会が多く、人の目に付きやすい場所にいたヤマネが目撃される事例が多いことが考えられる。

**標高別**では中部地方が1100～1500mにかけての目撃が多く、東北・関東地方では600～1000m、近畿・中国・四国・九州地方では0～500mの低山帯でも目撃されている。

ヤマネは高山に棲み夜行性で昼間は日内休眠をする事が知られ、一般的に目に付きにくい動物である。Web上でのヤマネ目撃情報を集積し活用するヤマネの分布調査は有効だと考えられる。更にデータを集積することにより、ヤマネを中部山岳域の環境変動の指標とすることが可能となるかもしれない。